

第13回 JATA インバウンドセミナー

◆「東京都の観光施策について」：村野 哲寛 氏（東京都 産業労働局 観光部 企画調整担当課長）

東京都が推進する最新の観光ビジョンと重点的なインバウンド政策を詳細に解説。持続的な成長を実現するための受入環境の整備、観光の DX、観光スポットの磨き上げ、地域経済への波及を目指す多様な取り組みを紹介し、行政が目指す方向性と今後の具体的な施策展開についての実務的な示唆を提示しました。

◆「東京観光産業ワンストップ支援センターの事業説明と支援メニューの紹介」：三木 元氏（東京観光財団 観光産業振興部次長 兼 課長）

民間観光事業者および旅行会社の課題解決を全般的にサポートする「ワンストップ支援センター」の役割と機能を解説。最新の補助金制度や助成メニュー、人材育成プログラム、受け入れ環境の整備に対する相談窓口など、実務者が日々の業務で即使える実践的かつ具体的な支援プログラムを提示しました。

◆「日本は 6,000 万人の外国人旅行者を受入れらるか」：吉村 久夫 教授（帝京大学 経済学部 観光経営学科）

「第5次観光立国推進基本計画」の本格始動を受け、学術的・体系的視点から今後の展望を分析。インバウンド市場が「量から質」への転換を迫られていることを示し、ゴールデンルートだけに依存しない地方誘客の推進、国内旅行の需要分散、さらには Z 世代を含む若年層の海外旅行推進といった「双方向の交流（イン・アウトのバランス）」が日本の観光ブランドを真に強靱にするために不可欠であると説きました。

◆「『持続可能な観光』というものに取り組む意義とその取り組み方」：大野 一 氏（観光庁 国際観光課 前専門官）

オーバーツーリズムが深刻化する中、観光経営が目指すべき「サステナビリティ」の本質を解説。観光地としての魅力維持には「旅行客の満足度」と「地域住民の生活クオリティ」の高度な両立が不可欠であり、地域資源を守りながら利益を還元する仕組みづくりが重要であると指摘。持続可能な評価指標の導入など、実務者が取るべきアクションを提案しました。

◆「分散型ホテル『アルベルゴディフーズ』、地域と共に観光需要を生み出すエリアイノベーション」：上山 康博 氏（株式会社百戦錬磨 代表取締役社長）

地域社会が直面する「空き家問題」や「遊休資産の増加」という社会課題に対し、建物単体ではなく地域一帯を一つのホテルと見立てるイタリア発祥の「アルベルゴディフーズ（分散型ホテル）」のコンセプトを活用したエリアイノベーションを提唱。長崎県平戸市での日本初の取り組みである「城泊」（耐震補強を経て城下町の空き家群も含めて展開）や、学校施設跡地を2018年の民泊新法施行の第1号として活用し高い集客実績を上げた別荘分譲地の事例を紹介しました。

さらに、これまでの旅行会社の「手数料ビジネス」を超えて、不動産や地域交通といった隣接分野へ踏み込むことやファンド・SPCの組成など新たなやり方の検討を促しました。また、11

月の防災庁設置を見据えて被災時の宿泊施設の活用方法について大学と意見交換中であることに言及しつつ、デジタルの力を活用した完全無償のグループ・団体・教育旅行向け地域体験情報集約プラットフォーム「完成 JAPAN」を紹介。JATA 会員企業の高いコミュニケーション能力を活かし、同プラットフォームへ登録を推進して協働することを呼びかけました。